

2023年度

一般社団法人

示現会

NO.4

(通算 NO41) 2023・4・30

事務局だより

事務所 ☎ 03-3824-9128

- 第76回示現会展報告
- 会場揭示案会

裏面 ○＜特集＞ 展覧会開催まで
受賞者の言葉

例年、桜の満開の時期に示現会展が開催されますが、今年は全国的に桜の開花が早く美術館の桜も盛りが過ぎていて少し残念でした。展覧会初日は表彰式、懇親会が開催されました。表彰式では現寿賞の方々も多数参加、理事長から記念品を授与され喜び一杯の1日になりました。

第76回示現会展報告

力を結集！成功裏に終了

国立新美術館における第七十六回示現会展が終了しました。会期中は天候にも恵まれ、多くの方々が鑑賞に訪れました。久しぶりにお会いする方々も多く、会場のあちこちで話がはずんでいる様子を目にしました。

また、今回は特に外国から見えられた方々、そして二十代の若い人たちが多く見受けられました。

コロナの感染がおさまらないなかでの開催ではありましたが、四月一七日無事最終日を迎えることが出来ました。

本日は第七十六回示現会展において頂きありがとうございます。

三年前の令和二年一月に新型コロナウイルスが日本に上陸してまる三年が経ちました。初上陸した令和二年の七十三回示現会展はやむ無く中止、七十四、七十五回展はコロナの動向を見つつ、開催の是非並びに表彰式、出品者懇親会等々の行事開催の有無を検討しつつ薄氷を踏む思いで開催してきました。

絵描きが絵を描き展示する、それをお客様に観ていただくという一連の流れを一本の縦糸とすれば、その縦糸に沿って幾重にも横糸が織りなされ、絵は複雑に発酵を繰り返し成長していきます。その成長した作品を展示して会場は充実し、お客様をお迎えするものです。その横糸というのは、モチーフを固めるための現場スケッチ、それをもとにした数多

事務責任者 井上 武

数字で見る第76回示現会展

総展示数 703点
一般入選者 140名
初出品者 51名

総入場者数 12,607人
有料入場者数 1,245人
(半数は外国人)
学生証提示 844人

1日平均入場者数 約 1,051人
一日の最多入場者 1,368人
(4月5日(水))
絵葉書売り上げ枚数 3,294枚



第七十六回示現会展開催にあたって

くのデッサン、制作途中での研究会の講師の助言による行きつ戻りつの推敲、他の展覧会を鑑賞して吸収した滋養、絵描き仲間との絵画談義等々の積み重ねで絵は出来上がっていくのです。今、コロナの時代、不要不急の外出は自粛しています。窮屈なアトリエの中だけでの制作、わき目もふらず自分の絵とだけ対峙して、作者の思考のみの制作、外部の刺激は皆無です。絵画制作とは、作品展示とは、かように縦糸に横糸が縦横に、複雑に織り重なり完成したものであるべきです。今はそれを思うように織り込めません。あと少し、コロナと共に共存し自由な制作が可能となった時の展覧会をお待ちください。

令和五年四月
一般社団法人 示現会

これは、会場入り口に揭示された示現会展を紹介する案内版です。英文も同時に揭示され多くの外国の方も読んでいました。

特集1

展覧会開催まで

役員、委員、会員一体となり
展覧会開催の準備にあたりまし
た。写真はその一部です。いろ
いろな係が活躍しました。



作品搬入受付



名簿係の皆さん



システム会議で最終打ち合せ



作品展示の作業



第76回示現会展審査員



宮定真弓

渡邊良一

三杉和子

徳田則子

大瀧弘子

土田恒夫

武 敏夫

小材啓治

石橋俊博

中川澄子

鈴木 實

成田禎介

井上 武

佐藤祐治

錦織重治

審査鑑別は美術館の使用規定により人数が限られ、昨年に引き続き15名の本部役員が担当しました。

文部科学大臣賞選考委員会には外部審査員として佐藤哲先生、小川尊一先生に参加いただきました。



芸術院会員
東光会理事長
佐藤哲先生

創元会理事長
小川尊一先生

文部科学大臣賞の選考は外部審査員の2名の先生と本会の常務理事が担当して行いました。第76回示現会展の大臣賞は理事の徳田則子さんに決まりました。



「緑の中で」

〈文部科学大臣賞〉
授賞の後先
病院の待合室で携帯が鳴った。会から文部科学大臣賞授賞の知らせだった。



徳田則子

嬉しいより受診の順番が呼ばれるのが気になって少々うろたえて、椅子を立ったり座ったり、自分の作品はどう描いたか思い出してみたりした。三年前、今回の作品にとりかかっていた時、高齢の私には百二十号は手にあまり、キャンバスとイーゼルともどもひっくり返ってしまった。背骨と脇腹の骨折、以来今日まで杖をつく生活である。友人や周りの方々が色々と助けてくださり今回の賞は皆さんに感謝でしかない。



「母子像を仰ぐ娘」

〈示現会賞〉



吉塚春生

受賞に關しての思い
この度、名誉ある賞を頂き、更に授賞式では凛とした空気の中、スピーチする機会まで与えて頂き心より感謝致します。改めて示現会の歴史の深さと重みを実感し身の引き締まる思いでした。これからも「良い絵を描くこと」に誇りと気概を持って努力していく所存です。今回「母子像を仰ぐ娘」が評価された事をとても嬉しく思っております。

特集2 ちよっと紹介

リーフレットの発行

4ページのカラーで印刷されたリーフレットは役員作品及び、受賞者の作品が紹介されています。

巡回展でも配布されます。ぜひご覧ください



示現会のいろいろな案内はホームページに掲載されます。ぜひご覧ください。



皆様からのニュースをお待ちしています。
メール先 佐藤祐治宛
sato_y_n@d6.dion.ne.jp